

今治地誌集 資料編 近・現代3

目次

写真・地図  
序  
編集について  
凡例  
解題

掲載地誌資料一覧

江戸時代

1 四國七城巡見録(抄)	寛永四年	一
2 豫陽郡郷便誌集(抄)	宝永七年	二
野間郡		四
越智郡		五
3 空性法親王四國霊場御巡行記(抄)	寛永年間	一〇
4 四國遍路日記(抄)	承応二年	一一
5 西海巡見志(抄)	寛文七年	一二
6 四國遍路道指南(抄)	貞享四年	一七
7 四國遍路霊場記(抄)	元禄二年	一九
8 豫陽縣芥集(抄)	江戸中期	二一

9 四國遍礼名所図会(抄)	寛政十二年	二七
10 伊豫二名集(抄)	文化年間	三〇
越智郡		三〇
野間郡		三五
11 伊豫國舊蹟考(抄)	江戸後期	三八
12 愛媛面影(抄)	慶応三年	三九
越智郡		四一
野間郡		六〇
13 伊豫古蹟志(抄)	享和二年	六三

明治時代

1 伊豫國越智郡地誌(抄)	明治十三年頃	六七
越智郡地誌	卷	六八
同	式	一〇一
同	参	一五九
同	四	一八二
同	五	二二四
2 伊豫國野間郡地誌(抄)	明治十三年頃	二五一
野間郡地誌	一	二五一
同	二	二五八
同	三	二八一
3 越智郡誌(抄)	明治初年頃	二九三
4 地理図誌稿伊豫國越智郡(抄)	明治六年頃	二九四

5 地理図誌稿伊豫國野間郡(抄)	明治六年頃	三一四
6 伊豫温故録(抄)	明治二十七年	三二〇
野間郡		三二〇
越智郡		三二六
7 伊豫國小地誌(抄)	明治二十八年	三二五
8 愛媛縣史談(抄)	明治二十九年	三四八
9 日本名勝地誌(抄)	明治三十一年	三五二
10 愛媛縣地理歴史(抄)	明治三十五年	三五六
11 愛媛縣地誌(抄)	明治四十三年	三五八
第一編 自然地理		三五八
第二編 人文地理		三六五
12 乃乃村郷土誌	明治四十四年	三八一
第一編 自然誌		三八一
第二編 人文誌		三九〇
13 波止浜町郷土誌提要	明治末期	四四二
第一編 自然誌		四四三
第二編 歴史		四四四
14 立花村郷土誌	明治四十四年	四六二
自然誌		四六三
人文誌		四六三
教育沿革		四六五
人物小伝		四六六
名所旧跡		四六八
民俗		四六九
郷土史材料		四七一

大正時代

1 愛媛縣今治町々勢便覧	大正三年	四八〇
--------------	------	-----

2 清水村郷土誌	大正四年	四九三
第一編 自然誌		四九四
第二編 人文誌		五〇八
3 越智郡々勢誌(抄)	大正五年	五四七
第一章 沿革		五四八
第二章 土地及戸口		五五三
第三章 農産業		五五八
第四章 郡教育		五六五
第五章 郡の宗教		五六八
4 愛媛縣勢誌(抄)	大正五年	六四三
5 愛媛縣誌稿(抄)	大正六年	七一〇
6 日吉村郷土誌	大正七年	七四八
第一編 自然誌		七四八
第二編 人文誌		七五一
7 今治市勢要覧(第一回)	大正十年	七八二
8 今治市(今治市要覧)	大正十年	八〇八
9 今治商工人名録	大正十三年	八二九

昭和時代

1 伊豫史料叢書(伊豫の古城跡)(抄)	昭和初期	八五七
越智郡		八五七
野間郡		八六八
2 燧隔大観(抄)	昭和四年	八八二
3 今治市越智郡郷土史要(抄)	昭和四年	八九一
4 日本地理風俗大系(抄)	昭和五年	八九三
5 日本地理大系(抄)	昭和六年	八九六
6 本校の地理教育(抄)	昭和六年	八九九
7 郷土地理資料	昭和六年	九三九

8 今治市の地理的考察	昭和六年	九五四
1 今治市の発展		九五七
2 工業都市としての今治市		九六三
3 今治市と交通運輸		九六八
4 人口と今治市		九七一
5 今治市都市計画の概要		九七二
9 今治市越智郡大観 (抄)	昭和六年	九七二
今治市		九七二
越智郡		九八五
10 宮瀧誌	昭和十年	一〇一〇
11 日本都市大観 (抄)	昭和十一年	一〇一四
12 愛媛縣の人口 (抄)	昭和十二年	一〇一八
13 今治商工人名録	昭和十二年	一〇二〇
14 日本地名大辭典	昭和十二年	一〇五二
15 大日本地名辭書	昭和十二年	一〇五四
16 今治市統計要覽	昭和十三年	一〇六三
17 新日本地誌 (抄)	昭和十五年	一一二八

あとがき

四國七城巡見録 (抄)

—— 寛永四年 ——

今はりの城

八月十七日

(城図あり、略す)

一本丸西之方百四十足、間ニメ四十間、石垣高さ八間計、東も同前、南ノ方百廿足、間ニメ卅四間、石垣右同、北も南同前、堀之は、四方共ニ卅間ツ、四方多門、四方ノ角ニ二重之矢倉四ツ、天守ハ無御座候、

□東ニ二ノ丸へ、二ノ丸東百足、間ニメ廿八間、西之方ハ本丸、南百四十足、間ニメ四十間、北も南同前、堀ハ本丸ノ堀一所、石垣高さ六間計、□西ニ有門矢倉也、橋なり、東ニ□門矢倉土橋なり、まわりへい、

三ツめ丸東ニ有、南ノ方百廿足、間ニメ卅四間、北同前、石垣高さ三間計、北ニハ石垣なくミちなり、東ノ方式百足、間ニメ五十七間、石垣高さ三間計、西ハ□ノ丸堀、南と東と二方計は、八間計、石垣の上ニへいなく、内下ニ北東南方長ヤ、石垣と長ヤの間道、□南ニ有、かみき門なり、

一侍町□之丸南ノ方千足、間ニメ式百八十六間、町ニメ四町四十六間、内東ノ西之方へ式町廿三間石垣なり、高さ土手同前、西ノ方八百八十足、間ニメ式百五十卷間半、町ニメ四町十卷間半、土手高さ三間計、堀は、廿間、三方共ニ同前、

東ハ海ノ方石垣高さ三間計堀なし、石垣と海との間十四五間も有、此方ハさく也、

北西南土手ハしは□なり、へいなし、此丸四方合十七町五十五間也、一惣とるわ南ノ方五百足、間ニメ百四十三間、町ニメ式町廿三間、北の方六町、西之方千五百七十足、間ニメ四百四十八間半、町ニメ七町廿

八間半、

一町ハ城之北ニ北南三町ニ五筋有、四五百有、

おとな分

鎌田 新兵衛 千石 丹羽弥五左エ門 六百石

出 頭 後藤 佐左衛門 三百石

鎌田 将 監 三百石 才 了 了 宇衛門 四百石

堀江 平兵衛 五百石

一寛永三年之物成少も日ニやけ不申候由、当妻能出来申候由申候、当作いつものことく出来申候由申候、何も城ハつくりい申所無御座、くすれ次第仕候と見へ申候、矢倉のかわらなともはし、おち、へいも土おち申候、

一家中馬乗四十四、五人御座候、

一鉄炮之者百計御座候之由申候、

一舟入東ニあり、乗舟五そう荷舟三そう有、

八月十六日とまり、十七日ニ今はり参見申候、

はやしへ 一リ

中村へ 三リ 加藤出羽殿領分

ひへへ 二リ

此間ニ大明寺川 川なしと申小河あり、

大町へ 卷リ

はんきうへ 二リ

八月十八日とまり

すみの村へ 卷リ

関へ 二リ

三島へ 二リ

此間ニこう山川と云ふ川有

川の上へ 卷リ

よきへ 讃岐さかい、伊与国 半里